

AI × 新しい技術 MUSIC

現在、様々な分野でAI（Artificial Intelligence：人工知能）の活用が進んでいる。AIの活用は我々の生活を豊かにしてくれる一方で、その急速な発展に不安を感じる人も少なくない。EXDREAM株式会社の代表を務める齋藤喜寛さんは、音楽にAI技術を取り入れる革新的な研究を行っている。我々はAIという新たな技術とどのように向き合っていけばいいのか。そのヒントを得るため、齋藤さんにお話を伺った。

AI×音楽

——齋藤さんはAIを用いた作曲の第一人者として活躍されています。齋藤さんの音楽との出会いはどのようなものだったのですか。

小学校5年生か6年生の頃に友人のお姉さんにギターをもらったのが始まりです。もしかしたら自分の人生は音楽のためになるのかもしれない。その時なぜかそんなことを感じ、今までもずっと音楽をやってきました。最初はロックをやっていて、次第にジャズに興味を持つようになり、10代の半ばには音楽理論の研究を始めました。研究を進めていくうちに音楽理論は数学的であることが分かり、プログラミングとの相性が良いのではないかと思うようになったんです。そこで新たな音楽の可能性を探るべく、プログラミングを勉強し始め、AIを用いた作曲に取り組みようになりました。これはまさに自分が研究すべき領域だなと思い、今はAIを用いた作曲に注力しているという感じですよ。

——AI作曲について教えてください。

「AI作曲」とわかりやすく言っていますが、AIが行っていることは厳密には「作曲」ではなく「生成」なんです。「生成」とは、AIで言えば、アルゴリズムに基づいてメロディーなどの新たな音楽を書き出すこと、ただそれだけを指します。一方で「作曲」とは、何かを伝えたいという願いや感情があつて、それを音楽を通して人々に投げかけるまでの一連のプロセスを指します。AIができる「生成」は、そ